

2017年(平成29年度)複数年サイクル点検評価レポート【施策評価】

分野名	II-3 全てのいのちが共生する社会の構築	施策No.	16	施策名	生息環境の保全
-----	-----------------------	-------	----	-----	---------

目的、内容	生物多様性保全に資する地域指定の拡大(保安林、鳥獣保護区等の拡大)、農空間保全地域制度による保全の推進 2020年目標:生物多様性保全に資する地域指定を計画策定時(2010年3月末81,970ha)から2,000ha拡大					
副次的効果、外部効果等	①生息環境を回復するための取組みにより、身近に生き物と触れ合える水とみどり豊かな都市が実現する。 ②生態系から得られる恵み(大気・水、食料・木材、医薬品・品種改良、文化・風土、防災:生態系サービス)の維持向上に資する。					
関係法令、行政計画等	生物多様性条約、生物多様性基本法、生物多様性国家戦略2012-2020(2012.9) 府環境基本条例、府自然環境保全条例、府立自然公園条例、府民の森条例、府自然海浜保全地区条例、府文化財保護条例 みどりの大阪推進計画(2009年12月、2025年まで) 新・大阪府豊かな海づくりプラン(2015年4月、2024年度まで)					
国等の政策、社会情勢等	①2010年10月名古屋市にて生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)開催、新戦略計画・愛知目標(2020年までに生態系が強靱で基礎的なサービスを提供できるよう、生物多様性の損失を止めるために実効的かつ緊急の行動を起こす)、名古屋議定書等を採択。 ②「生物多様性国家戦略2012-2020」2012年9月閣議決定。基本戦略、各主体に期待される役割、ロードマップ、行動計画を規定。					
(参考) 「講じた施策」に記載した施策事業コスト	2014年度(決算額)(千円)	2015年度(決算額)(千円)	2016年度(決算見込額)(千円)			
	107,287	179,904	148,435			
※各年度で「講じた施策」への掲載事業が異なることから、新規事業の有無等に関わらず、年度間でコストの増減がある。						
取組指標及び実績 (施策効果の定量評価)	①	名称	把握方法	実績		
		生物多様性保全に資する地域指定の対象面積	保安林、鳥獣保護区、国定公園、府立自然公園、近郊緑地保全区域等の面積を合算(府環境白書掲載データ)	81,991ha(2009年度末) 83,892ha(2016年度末)		
工程表の進捗状況	工程名	進捗状況*	主な事業の名称	事業の実施状況		
	生息環境の保全・再生の仕組み					
	生物多様性推進拠点の整備	☆☆	大阪府レッドデータリストの改訂(2013年度)	レッドリストにおいて生物多様性の高い地域をホットスポットとして選定、ランク付けを行い、保全を呼びかけ		
			多奈川ピオトープ保全活動の推進	2016年度の取組 ハイキングイベント 1回 参加者数338人 自然観察イベント 5回 参加者数401人		
			日本万国博覧会記念公園事業(市民参加型事業)	2016年度の取組 ・園内花壇管理 5,487人(参加のべ人数) ・森づくり・足湯運営 26,763人(参加のべ人数) ・竹林・田畑等の保全・管理 7,225人(参加のべ人数) ・水質調査、野生生物生息調査 4,416人(参加のべ人数) ・ガイドボランティア養成 117人(参加のべ人数)		
	生物多様性の保全に資する地域指定拡大(保安林・鳥獣保護区の拡大)	☆☆	保安林の指定	2014~16年度に99ha追加指定。		
	(府立自然公園区域の指定)		鳥獣保護区の指定・更新	(鳥獣保護区の区域拡大)2014年度:113ha(1カ所) (鳥獣保護区の更新)2014年度:305ha(1カ所 ※区域拡大による113ha含む) 2015年度:419ha(2カ所)、2016年度:該当なし		
			大阪府緑地環境保全地域の指定	2014年度に、豊能町木代地区4.78haを指定		
	天然記念物の追加指定の検討	☆☆	天然記念物の指定	2014~16年度は、国指定は追加なし。府指定は新たに3件を追加。さらに、指定候補となりうる樹木の調査を継続中。		
	生息環境の保全・再生・創造					
法・条例に基づく緑地や自然環境の保全(自然公園法、森林法、大阪府自然環境保全条例、大阪府自然海浜保全地区条例による地域の保全)	☆☆	自然環境保全指導事業	指導員による巡視活動の実施			
		自然海浜保全地区管理事業	自然海浜(岬町)の清掃等の実施			
		森林保全管理事業	森林保全員の森林巡視活動及び森林法等に基づく開発行為の規制を通じて、保安林・府営林などの森林や自然環境の保全管理を実施			
生物多様性に配慮した農空間の保全と活用	☆☆	農空間保全地域制度推進事業	2014~16年度末までの遊休農地解消面積等 332.7ha			

	森林整備の推進（針広混交林化の推進）	☆☆	放置森林対策事業	防災上優先度が高い森林について優先的な管理対策を実施
			アドプトフォレスト	企業による森林整備 2016年度末時点で48社・団体が41箇所活動
	里山の保全管理の推進（新たな森づくり制度の創設）	☆☆	森林・山村多面的機能発揮対策事業	大阪さとり地域協議会への支援を通じた、里山保全活動の促進 2016年度 64団体 510haで整備を実施
	野生生物の適正な管理（シカ、イノシシの管理計画の推進）	☆☆	大阪府シカ管理計画（第3期：2012年度～2016年度）	シカの捕獲や進入防止柵等の被害対策を総合的に推進し、人とシカの永続的な共存を図る 捕獲頭数 2014年度：1,355頭、2015年度：1,510頭、2016年度：1,135頭
			大阪府イノシシ管理計画（第2期：2012年度～2016年度）	イノシシの捕獲や進入防止柵の設置等の被害対策を総合的に推進し、人とイノシシの永続的な共存を図る 捕獲頭数 2014年度：3,747頭、2015年度：2,449頭、2016年度：4,226頭
	外来生物対策（アライグマ防除実施計画の推進）	☆☆	アライグマ防除実施計画（第2期：2011年度～2015年度） （第3期：2016年度～2020年度）	市町村と連携して科学的・計画的な防除を実施 最終目標はアライグマの野外からの完全排除 捕獲頭数 2014年度：1,590頭、2015年度：1,162頭、2016年度：2,001頭（暫定値）
外来生物対策（ブラックバス、ブルーギルの駆除、外来水生植物の駆除）	☆☆	イタセンパラ生息環境の保全活動	市民団体、大学、企業、行政などで構成する「淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク（イタセンネット）」による、イタセンパラの生息場所「ワンド」における特定外来生物ブルーギル、ブラックバス、ナガエツルノゲイトウなどの駆除や外来魚駆除釣り大会等の活動について連携、支援を実施。	
生物多様性増大、生態系保全に関する調査研究推進	☆☆	酸性雨モニタリング土壌植生調査	酸性雨による生態系への影響の早期把握のための植生調査を実施（2014～16）	
		森林資源モニタリング調査	カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害の発生・被害経過について調査、防除事業を実施（2014） ※2015年度以降は、国が直接実施する事業となり、府の関与はなくなった	
		大阪府レッドデータブック改定（2013年度）	希少種、絶滅危惧種に関する情報を収集して作成 2014年度～2016年度 会議・イベント等で配布	
※進捗状況：☆☆☆計画以上の進捗/☆☆計画どおり/☆計画以下の進捗/△計画とは異なる事業内容で進捗				
評価		評価	理由等	
	施策目的の達成状況	順調に推移している	目標の2,000ha増に対し、2016年度までに1,922haを指定済み	
	事業・工程の進捗状況	概ね想定どおり進捗している		
計画見直し又は改善事項		見直し・改善点の有無	見直し・改善点の内容等	
	目標	無		
	施策の方向・主な施策	無		
	工程表	無		
	その他の改善事項	無		
関係課室	みどり推進室、環境管理室、農政室、動物愛護畜産課、教育庁、環農水研、水産課、環境管理室、環境農林水産総務課、府民文化部			

環境総合計画部会委員による点検（所見）	点検評価手法の適正さについて	評価結果について	計画の見直し又は改善方針について
	評価手法は適正である。	評価結果は概ね妥当であるが、シカなどの在来野生獣、アライグマ、ブラックバスなどの外来生物などによる生物多様性への悪影響の緩和に向けた努力が必要である。	環境省の「重要里地里山500」に大阪府域では22カ所が選定されている。大阪府レッドリスト2014に掲載された生物多様性ホットスポットなどとともに重点的に自然環境保全に取り組むことを検討してほしい。